



笑門来福

子どもたちが笑い、楽しい学校でありますように…

校長 藤本 謹吾



学校教育に対する保護者・地域の方々の、数えきれない応援・支援に心より感謝申し上げますとともに、あらためまして2025年もよろしくお願ひいたします。

さて、今年の正月も「東京箱根間往復大学駅伝競走」に多くの感動（元気）をもらいました。テレビ中継はもちろんですが、今年は3日復路の8区、茅ヶ崎の134号線まで行きました。そして、特定のチームを応援するわけではなく、21選手の力走を応援してきました。

「人を応援するときに『がんばれ』というのはよくない」ということをよく聞きます。「がんばっているのに『がんばれ』はないだろう」ということなのでしょう。

しかし目の前を素晴らしいスピードでさーっと通り過ぎていく選手たちを応援するには、拍手と「〇〇がんばれ！」の声かけしかできない・・・のは私だけではなく、集まったすべての人がそのようでした。でも、その拍手の音、言葉に感じられる気持ちが、うまく言えないですが「本物・本気」で、それが一体となって「応援」となり、走路のいたるところで選手に届いているのではと感じました。

言葉はもちろん大切ですが、そこに込められた気持ちが伝わるように言葉を使うことが大事なのだと改めて思います。

新しい年が始まり、学校は3学期というまとめの時期を迎えました。気持ちが伝わる言葉を大事にしながら子ども同士、子どもと教職員、教職員同士のコミュニケーションをして、「今日こんなことがあったんだよ」「明日は〇〇だ」と子どもたちが家で話すような、笑顔のあふれる楽しい学校にしていきたいと思います。ご家庭でも学校の話がたくさん出るよう、「応援」をよろしくお願ひします。



多様なあいさつで

目指せ「あいさつ宇宙一」生活委員会担当 

世界を見渡しても挨拶のない国はほとんどありません。それは、挨拶が人間関係の基盤であり、社会生活における基本的なマナーだからです。そこで本校では、長年「あいさつ宇宙一」を目標に掲げ、生活委員会の5・6年生を中心として登校時に挨拶運動を行ってきました。

また、毎学期の終業式には委員会の児童が全校に向けて「長期休業中にも家庭・地域で気持ちの良い挨拶を心がけよう」という呼びかけをしてきました。

しかしながら、目標を掲げた後にコロナ禍に陥り、元気な声で挨拶を交わすことが困難になった時期がありました。声を発さずに心を交わし、気持ちの良い挨拶をするにはどうしたらよいか、委員会の児童が話し合い、「顔を見ておじぎをする」ことでも気持ちは伝わるのではないかというアイデアが生まれました。それ以降は、単に大きな声を推奨するのではなく互いの挨拶に多様性を認められるような寛容な雰囲気醸成されていきました。

中津小学校は他の地域に類を見ないほど、多様な文化の入り混じった貴重な環境です。そのアドバンテージを生かして、様々な挨拶を通じて児童が心を交わし、互いの存在を認め合えるようになることを願っています。



1月・2月の主な行事予定

- 1月10日（金）給食開始
- 17日（金）6年生思い出遠足
- 20日（月）～24日（金）書き初め展
- 20日（月）～31日（金）持久走旬間
- 24日（金）新入生保護者説明会
- 27日（月）芸術鑑賞教室
- 30日（木）3年生クラブ見学
- 2月10日（月）学校保健委員会
- 14日（金）授業参観・懇談会（1～5年生）
- 14日（金）愛川東中新入生オリエンテーション
- 19日（水）授業参観・懇談会（6年生）
- 27日（木）6年生を送る会

※現在までの予定となります。

変更した場合は、学年便り等で連絡いたしますので、ご確認ください。

